

わくわく

12月号

本だな

1 2 3 年



E 『ねこおばさんニンジャ』

マスダフミコ／作 新日本出版社

ねこおばさんは、村のかそう<sup>むら</sup>大会でニンジャのかそう<sup>たいかい</sup>をすることにします。よる、外でかそう大会のれんしゅう<sup>そと</sup>をしていると、ニンジャのようなかっこうである<sup>おとこ</sup>いている男がいました。ねこおばさんは、なかまだとおもいよろこびますが、この男はどろぼう<sup>おとこ</sup>だったのです。

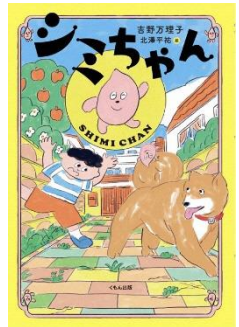
えほん

K913 『シミちゃん』

吉野万理子／作 北澤平祐／絵 くもん出版

せかいじゅうでびょうきがはやり、出かける<sup>で</sup>ときにはマスクをすることに<sup>あ</sup>なりました。ところが、お母さんのほっぺたのシミが、「マスクをしちゃうと、外が見えないよ<sup>そと</sup>よ」といって、にげだしてしまっ<sup>か</sup>たのです。マーくんは、シミちゃんをおいかけますが……。

ものがたり



K933 『物語 王さまとかじや』

ものがたり

ジェイコブ・ブランク／文 ルイス・スロボドキン／絵

八木田宜子／訳 徳間書店

8さいの王さまは、いつも大じん<sup>お</sup>たちがきめたこと<sup>だい</sup>だけを<sup>ひ</sup>なくてはならないので、うんざり<sup>ひ</sup>していました。そんなある日、からす<sup>ひ</sup>にかんむりをぬすまれて<sup>ひ</sup>しまいます。王さまは、からすをおどろかすために、くに<sup>お</sup>でいちばん大きな声のかじや<sup>こえ</sup>をつれてくることに<sup>ひ</sup>しました。

ものがたり

E 『そらをとびたい』

山本直洋／写真 ちかぞう／文 小学館

モーターパラグライダーは、空をとぶ<sup>そら</sup>スポーツです。せ中に<sup>なか</sup>プロペラ<sup>なか</sup>つきのエンジン<sup>なか</sup>をせおい、パラグライダーのつばさを<sup>ひろ</sup>広げたら、ふじさんよりも<sup>たか</sup>高くとべます。くもの<sup>なか</sup>かがやく世界<sup>せかい</sup>や、まんま<sup>なか</sup>るのに<sup>なか</sup>じなど、空からさつえい<sup>なか</sup>した写真<sup>なか</sup>をしょうかい<sup>なか</sup>します。

ちしきのほん



わ く わ く

12月号

本 だ な

4 5 6 年



物語

K949 『おてんばヨリーとひげおじさん』

アニー・M.G. シュミット／作 フィープ・ヴェステンドルプ／絵  
西村由美／訳 岩波書店

今日は新しい列車のおひろめの日。車しょうのひげおじさんは大はりきりです。ところが、ヨリーが列車の下に入りこんだハリネズミたちを助けようとしたため、発車が30分以上もおくれてしまいました。しかも列車には、ハリネズミそっくりのばくだんがしかけられていたのです。

物語

K913 『<sup>がけ</sup>崖の下の<sup>まほうつかい</sup>魔法使い』

吉野万理子／作 宮尾和孝／絵 学研

ミケは、同じクラスの大<sup>たいが</sup>河に、崖の下にあるふしぎなお店のことを教えてもらいます。そのお店には魔法使いがいて、子どもの思い出をあずかってくれるそうです。

ミケはさっそくお店に行って、今日あったいやな出来事をあずけることにします。魔法使いがオルゴールのような箱をあけたとたん、今日の出来事は頭の中から消えてしまいました。



ちしきの本

E 『すずりくん 書道具のおはなし』

青柳貴史／作 中川学／絵 あかね書房

わたしたちの身の回りには、筆で書かれた文字がたくさんあります。文字を書くときに使う紙、筆、<sup>すみ</sup>墨、すずりは、昔から<sup>たからもの</sup>宝物として大切にされてきました。とくにすずりは、選びぬかれた石を使っていて、千年使ってもこわれ<sup>りっぱ</sup>ないほど立派な道具です。

習字道具の作り方や、文字のなりたちを見てみましょう。

図書館のまどぐちには、くみたとすると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200